

スポーツ庁委託事業

「令和4年度スポーツキャリアサポート支援事業」における  
スポーツキャリアサポートコンソーシアムの運営

事業実施報告書

株式会社フューチャー・デザイン・ラボ

**FUTURE** Design Lab  
www.futuredesignlab.jp

# 目次

I. 本年度の事業目的	・ ・ ・ ・ ・ P4
II. 事業計画と実績	・ ・ ・ ・ ・ P7
(1) 総会および運営委員会の開催に関する業務	
1) 計画	・ ・ ・ ・ ・ P7
2) 実績	
i) 総会	・ ・ ・ ・ ・ P8
ii) 運営委員会	
ア) 開催実績	・ ・ ・ ・ ・ P9
イ) 決定事項	・ ・ ・ ・ ・ P10
(2) 会員団体の拡大・連携推進	・ ・ ・ ・ ・ P11
1) 計画	・ ・ ・ ・ ・ P11
2) 実績	
i) 会員団体の拡大	・ ・ ・ ・ ・ P11
ii) 会員団体の連携推進	・ ・ ・ ・ ・ P12
(3) プロジェクトの推進	・ ・ ・ ・ ・ P14
①アスリートキャリアコーディネーターの育成	
1) 計画	・ ・ ・ ・ ・ P14
2) 実績	
i) プログラム⑩指導者向けガイダンスプログラム	・ ・ ・ ・ ・ P14
ii) プログラム①ベーシックプログラム	・ ・ ・ ・ ・ P16
iii) プログラム②アドバンスドプログラム	・ ・ ・ ・ ・ P18
iv) プログラム③継続学習プログラム	・ ・ ・ ・ ・ P21
②スポーツ界横断のキャリアセンターの試行的設置	・ ・ ・ ・ ・ P22
1) 計画	・ ・ ・ ・ ・ P22
2) 実績	・ ・ ・ ・ ・ P22
③会員団体の連携・協働によるプロジェクトの推進	・ ・ ・ ・ ・ P26
1) 計画	・ ・ ・ ・ ・ P26
2) 実績	・ ・ ・ ・ ・ P26
(4) 情報発信コンテンツの充実	・ ・ ・ ・ ・ P27
1) 計画	・ ・ ・ ・ ・ P27
2) 実績	・ ・ ・ ・ ・ P28
(5) 今後に向けた検討	・ ・ ・ ・ ・ P34

III. Athlete Career Challenge カンファレンス 2023 の開催	・ ・ ・ ・ ・ P35
1. カンファレンスの概要	・ ・ ・ ・ ・ P35
2. 集客状況および満足度	・ ・ ・ ・ ・ P38
3. カンファレンスのまとめと今後の課題	・ ・ ・ ・ ・ P41
IV. まとめ	・ ・ ・ ・ ・ P42
V. 事業実施体制	・ ・ ・ ・ ・ P44
VI. 参考資料	・ ・ ・ ・ ・ P44

参考資料 1) - 1 SCSC 会則 令和 3 年 1 0 月 1 日改正版

参考資料 1) - 2 寄附金等取扱規程

参考資料 2) SCSC 会員一覧 2023 年 3 月末現在

参考資料 3) ACC 育成プログラム受講者属性および受講後アンケート結果

参考資料 4) SCSC キャリアセンターチラシ

参考資料 5) - 1 カンファレンスチラシ・日本経済新聞掲載広告

参考資料 5) - 2 カンファレンス運營業務報告書 (株式会社MP & C作成)

## I. 本年度の事業目的

アスリートのキャリア形成に関わるステークホルダーは複雑多岐にわたる中、「関係団体が連携し、アスリートがスポーツキャリア及びライフキャリアを両立させるためのシステムを構築し、支援を提供する（参照：SCSC 会則）」ことを目的として、コンソーシアムが存在する。

令和4年に制定された第3期スポーツ基本計画には、「アスリートのキャリア形成」の今後の施策目標として「現役時のアスリートへ効果的にキャリア形成支援を行う支援者の不足等の課題を踏まえ、新たな取り組みを含め、アスリートのキャリア形成支援を着実に推進する」と明記されている。

その具体的な施策として

- ・NF等が実施する現役時のアスリートのデュアルキャリア形成支援が円滑に行われることを促す。
- ・スポーツ分野だけにとどまらず、スポーツ関連分野、さらには全くスポーツに関係しない新たな分野におけるアスリートの活躍事例を収集・調査分析し、現役アスリートや指導者等に対して、セミナー等を通じて広く情報提供を行い、多様な分野におけるアスリートのキャリア創出を促進する。
- ・引退時に現役時代に培った能力を社会に還元することができるよう、企業、地域団体、学校での運動指導やスポーツの価値・楽しさを伝える活動、教育活動等に関わる機会を、JOCが実施するアスリート派遣事業等を通して拡大する、と記載されている。

SCSCの運営にあたっては、この第3期スポーツ基本計画の方針に則り、アスリートのキャリア形成支援策を関係団体と連携しながら推進していく。

私たちは、アスリートが安心してスポーツに取り組むことができ、引退後も自己実現ができるキャリアアトランジションを成しえる環境をつくることは、スポーツ界だけでなく、まさに現代のキャリア形成にかかわる社会課題の解決に貢献するものと考えている。

SCSC加盟団体は、2020年2月時点で35団体であったが、弊社が当事業を受託した令和2年度、3年度で大手企業を含め29団体増え2022年3月時点で64団体へと拡大してきたが、中央競技団体の加盟が十分ではなく、本年度の大きなテーマとなっている。

また、令和3年度から開始したアスリートキャリアコーディネーターの育成については昨年度492名をACCとして認定することができた。本年度は引き続きACCを育成するとともに、この認定ACCの人材資産を活用し競技横断のキャリアセンターとしての機能提供を確立することが重要課題と認識している。

日本社会においては「一所懸命」、「二兎追うものは一兎も得ず」という一つのことに専心することを是とした価値観のもとで、ビジネス界においても一つの会社、仕事に専念することがこれまでは是であり、スポーツ界においても競技活動に専念し結果をだすことが求められてきた。

しかし産業界では終身雇用の崩壊、副業の解禁、テレワークの推進など働き方、価値観の転換期を迎

える中で、アスリートが、日本が直面する社会変化に応じたキャリア形成の一つのモデルとしてデュアルキャリア、キャリアトランスフォーメーションを実現できることを示すことは、スポーツ界のみならず日本全体の社会課題の一つであるキャリア形成に大きなインパクトを与えるものである。

そしてその実現には、産学官の戦略的連携が必要不可欠である。

アスリートが引退後のキャリアにおいてもスポーツで培った能力を発揮し活躍することは、アスリート個人の人生の充実のみならず、社会資源としてのアスリートの人材価値を社会に還元することにも繋がる。また、アスリートの競技活動内外の継続的な活躍は、スポーツの価値を高め、スポーツ参画人口の拡大、スポーツ産業の発展に貢献する。スポーツ産業の拡大は、競技団体の経営基盤を向上させ、競技力向上にも大きく貢献することとなり、好循環が生まれる。

アスリートがそれぞれの競技で行っている限界への挑戦が、競技を離れた後にも自らのキャリアへの挑戦へと転換され、自己実現を成し、社会へ貢献し続けることが、日本社会の成長、希望につながるものと考えられる。

以下、本年度のスポーツ庁公募要領の記載に基づき、事業を展開する。

### スポーツ庁令和4年度「スポーツキャリアサポート支援事業」公募要領より（一部抜粋）

---

スポーツキャリアサポートコンソーシアムの運営（（1）～（5））

(1) 総会及び運営委員会の開催に関する業務

総会（1回以上）及び運営委員会（3回以上）の開催のために必要な事務を処理する。

(2) 会員団体の拡大・連携推進

アスリートのキャリア形成支援に係る関係団体への啓発等を通じて、本コンソーシアム会員の拡大を図る。特に中央競技団体（NF）の加盟数が低迷しているという課題を踏まえ、中央競技団体が主体的に参画可能な体制を構築する。

(3) プロジェクトの推進

① アスリートキャリアコーディネーターの育成

キャリア移行期のアスリートが必要なタイミングでキャリア形成に関する支援を受けることができるよう、プロスポーツチーム、中央競技団体、その他のスポーツ団体、大学等への配置を想定し、現役アスリートのデュアルキャリア形成に必要な研修会等の開催、情報提供等を行う人材であるアスリートキャリアコーディネーター（以下ACC）を育成する。具体的には、有識者等の意見を取り入れつつ、令和2年度及び令和3年度の育成実績を踏まえ、その内容の改善や充実を図りながらACCを育成する。

② スポーツ界横断のキャリアセンターの試行的設置（ACCの活用）

ACCがアスリートに対して効果的にキャリア形成支援を行うことができる体制を構築するため、アスリート、指導者、学生アスリート等が利用可能な相談窓口を試行的に設置し、ACCが相談への対応（アスリートが利用可能なキャリア形成プログラムやセミナーの紹介等）に当たる等、ACCの活用を通じたアスリートのキャリア形成の支援体制を検証する。

③ 会員団体の連携・協働によるプロジェクトの推進

上記のプロジェクトのほか、会員団体の自発的な発案に基づくプロジェクトを1件以上行う。

(4) 情報発信コンテンツの充実

専用ウェブサイトやSNS等を活用し、国内外から収集したスポーツキャリアに関する情報やデュアルキャリア教育の啓発につながる情報等の発信を行う。また、効果的な情報発信方法について検討を行い、専用ウェブサイト等のコンテンツの充実を図る。

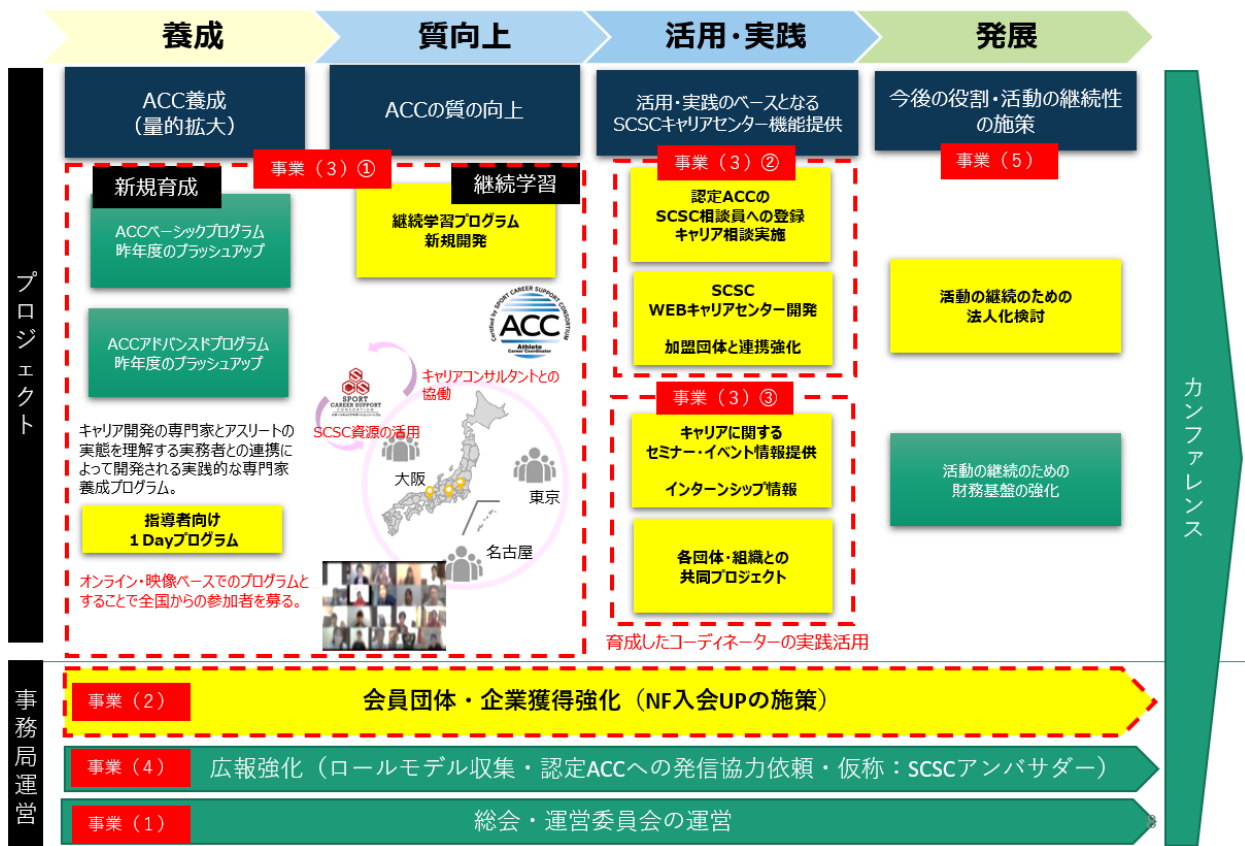
(5) 今後に向けた検討

これまでのスポーツキャリアサポートコンソーシアムの成果を踏まえ、今後のアスリートのキャリア形成支援の在り方及び、スポーツキャリアサポートコンソーシアムの今後の在り方や役割について検討を行い、次年度以降に実施すべき事業や政策を提言する。

## II.事業計画と実績

本事業の目的を達成するため、第1回運営委員会にて以下の事業計画が検討、承認され、本年度の事業を開始した。

【令和4年度 事業計画全体マップ】



以下、項目ごとに計画と実績を記す。

### (1) 総会及び運営委員会の開催に関する業務

#### 1) 計画

下記スケジュールで総会および運営委員会の開催を計画。

2022年7月上旬

2022年度第1回総会

2022年7月上旬	2022年度第1回運営委員会
2022年9月上旬	2022年度第2回運営委員会
2022年11月上旬	2022年度第3回運営委員会
2023年1月上旬	2022年度第4回運営委員会
2023年3月上旬	2022年度第5回運営委員会

## 2) 実 績

### i) 総 会

総会は、毎年一回開催することが SCSC 会則によって定められており、本年度も事業の開始に合わせて開催した。

日付	会議	議事次第	参加数
7/21	令和4年度SCSC総会	1) 令和4年度の事業方針についての説明 2) 運営委員の選任 3) その他	32名

総会にて令和4年度運営委員が以下の通り決定し、本年度の事業が開始された。  
運営委員の任期は、令和4年度7月21日から令和5年度の総会の終結の時までとなる。

### 令和4年度スポーツキャリアサポートコンソーシアム運営委員（50音順）

氏 名	所属組織
浅川 伸	公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構 専務理事
伊地知 和義	株式会社スポーツフィールド 取締役副社長
葛西 順一	公益社団法人全国大学体育連合 専務理事
木村 昌彦	公益財団法人全日本柔道連盟 指導者養成委員会委員長
高橋 義雄※	国立大学法人筑波大学体育系 准教授
田口 禎則	一般社団法人日本トップリーグ連携機構 理事・事務局長
竹原 啓二	株式会社フューチャー・デザイン・ラボ 代表取締役会長
立花 泰則	公益財団法人日本体操協会 情報医科学アンチ・ドーピング委員会 委員長
藤田 真也※	特定非営利活動法人キャリアカウンセリング協会 理事長
藤原 正樹	公益財団法人日本パラスポーツ協会 常務理事
星野 一郎	公益財団法人日本オリンピック委員会 専務理事
松木 知恵子	独立行政法人日本スポーツ振興センターハイパフォーマンススポーツセンター ハイパフォーマンス戦略部長
室伏 由佳※	順天堂大学スポーツ健康科学部 准教授



森岡 裕策	公益財団法人日本スポーツ協会 専務理事
森下 尚紀	株式会社 MPandC 代表取締役社長

\*学識経験者として、本会の運営にかかわる。

## ii) 運営委員会

### (ア) 開催実績

運営委員会は、本会の意思決定機関として位置づけられており、本会の運営に関する事項を審議する場である。本年度は第1回運営委員会にて7月から3月まで隔月での開催日程を決定し、スケジュール通り5回実施した。

日付	会議	議事次第	参加数
7/21	第1回運営委員会	決議事項 第1議案：役員の選任について 検討事項 令和4年度の事業（案）についての報告、及び意見交換 議論1・令和4年度全体計画について 議論2・NFの加入促進について 議論3・SCSCの自走化に向けて 報告事項 コンソーシアム新規入会希望団体について	13名
9/16	第2回運営委員会	検討事項 1) ACC育成プログラムの進捗状況について ・ベーシックプログラム ・アドバンスドプログラム ・指導者向けガイダンスプログラム ・継続学習プログラム 2) SCSCキャリアセンターの試行的スタートの件 ・ACCの応募状況 ・ACCの面談対象について ・ACCの面談実施に向けた個別施策について 報告事項 1) SCSCの組織の在り方について 2) 会員団体入会状況 3) SCSCサロン第1回実施報告および第2回応募状況	11名
11/18	第3回運営委員会	検討事項 1) 令和4年度カンファレンスについて 2) 指導者向け映像企画について	

		<p>報告事項</p> <p>1) ACC育成プログラム実施状況</p> <p>2) SCSCキャリアセンターの件</p> <p>3) SCSCサロン実施状況</p> <p>4) 会員団体入会状況</p>	9名
1/20	第4回運営委員会	<p>検討・確認事項</p> <p>1) ・3月4日開催 カンファレンスについて</p> <p>・カンファレンス運営委託先について</p> <p>・プログラム構成および登壇予定候補について</p> <p>2) 指導者向け映像企画の件</p> <p>報告事項</p> <p>1) ACC育成プログラム（アドバンスドプログラム）実施状況</p> <p>2) SCSCキャリアセンターの運営状況</p> <p>3) SCSCサロン実施状況</p> <p>4) 会員団体入会状況</p>	13名
3/10	第5回運営委員会	<p>報告事項</p> <p>1) 令和4年度カンファレンス実施報告（速報）</p> <p>2) 映像企画について（指導者向け）</p> <p>3) ACCの本年度認定者について</p> <p>4) キャリアセンターの運用状況について</p> <p>5) 会員団体入会状況について</p> <p>討議事項</p> <p>1) 本年度振り返り・来期に向けての課題</p>	10名

(イ) 決定事項

① 役員の選出

第1回運営委員会にて、以下の通り、役員が選出された。

会長 高橋 義雄

副会長 星野 一朗

森岡 裕策

藤原 正樹

松木 知恵子（新任）

## (2) 会員団体の拡大・連携推進

### 1) 計 画

中央競技団体が SCSC へ入会に至らない原因を考慮し、各団体の負担増とならないこと、スタッフのマンパワー不足部分をサポートできること等のメリットを明確にし、現会員団体、企業と連携を図りながら入会促進につなげていく。

#### i) 会員団体の拡大

##### アプローチ

⇒認定 ACC による面談・キャリアコンサルティングの無償提供

SCSC に加盟するメリットとして加盟団体所属のアスリート、監督、コーチ、スタッフ等への ACC によるキャリアコンサルティングの機会提供

⇒競技横断のキャリアセンター機能の提供

加盟団体には、後述する SCSC キャリアセンターのサイトへの公式リンクバナーを提供。将来的には、加盟団体には個別のサイトの提供も検討。

\* 今期スタート早々にスポーツ庁・統括団体と連名で NF 宛てのレターを作成し、加入促進、SCSC サロン、キャリアセンター立ち上げ等の案内を行う。

#### ii) 連携推進

⇒SCSC サロンの定期開催・充実

- ・サロンの定期開催を行い、加盟団体間の情報共有を促進する。
- ・中央競技団体を会員招待枠で参加を促す。

#### ★競技団体入会目標

競技団体を現在の 7 団体から 15 団体への拡大を目指す

### 2) 実 績

#### i) 会員団体の拡大

競技団体の今年度の新規入会は公益社団法人日本ホッケー協会、一般財団法人日本フットサル連盟の 2 団体にとどまったが、キャリア研修の提供・ACC による面談実施等で日本代表クラスの選手を育てている体操クラブや T リーグに所属するプロ卓球チームなどアスリートを直接抱えている団体の入会が進んだ。会員団体の拡大と連携推進を目的に後述の SCSC サロン等も積極的に展開した結果、新規に 19 団体が入会し、本年度の会員数は、合計 83 団体となった。

#### ●会員拡大

実績) 期初 64 団体 ⇒ 83 団体へ (3月10日時点)  
(令和4年度新規入会 19 団体)

★競技団体入会目標 競技団体を現在の7団体から15団体 については未達成に終わったが、公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）アスリート委員、公益財団法人日本スポーツ協会（JSPO）公認スポーツ指導者とのつながりができ、NFへのアプローチの道筋が見えてきたことは大きな収穫となった。

## 新規入会団体一覧（2022年7月以降～）

入会承認月	入会団体名
7月	株式会社 TRYWARP
	一般社団法人 CIEC（コンピュータ利用教育学会）
	株式会社 DEPORTE
	青山学院大学スポーツ健康イノベーションコンソーシアム
	株式会社ジャパンアスリートキャリアサポートセンター
8月	公益社団法人日本ホッケー協会
	株式会社アクシス
	関メディベースボール学院（野球）
10月	琉球アスティード株式会社（卓球）
	株式会社 LMK
	有限会社レジックススポーツ（体操）
11月	株式会社ナカムラロジスティクス
	株式会社 FIVE
12月	株式会社エス・アイ・ジェイ
	株式会社ミストラル
1月	株式会社キイストーン
	一般財団法人日本フットサル連盟
	ぴあ株式会社
2月	株式会社三菱総合研究所

※SCSC会員一覧は、\*参考資料2）SCSC会員一覧2023年3月現在 参照

### ii) 会員団体の連携推進

本年度は、会員間の情報共有・連携強化を図ることを目的に SCSC サロンの定期開催・充実に取り組んだ。第2回からは、SCSC 会員だけでなく認定 ACC の継続学習の機会としても提供することとしたため、多くの参加者を集めることができた。

**【第1回】**

実施日時	2022年8月24日16時30分～18時00分
実施場所	ZOOM ミーティング
登壇者	JOC キャリアアカデミー事業 ディレクター：中村 裕樹 氏 A ディレクター：柴 真樹 氏
参加人数	9名

**【第2回】**

実施日時	2022年9月21日16時30分～18時00分
実施場所	ZOOM ミーティング
登壇者	大阪大学大学院 経済学研究科 教授 佐々木 勝 氏
参加人数	59名

**【第3回】**

実施日時	2022年10月19日16時30分～18時00分
実施場所	ZOOM ミーティング
登壇者	田中ウルヴェ 京 氏
参加人数	91名

**【第4回】**

実施日時	2022年11月21日18時00分～20時00分
実施場所	ZOOM ミーティング
登壇者	水戸ホーリーホック ゼネラルマネージャー 西村 卓朗 氏 水戸ホーリーホック 社会連携担当 選手教育担当 中川 賀之 氏
参加人数	92名

**【第5回】**

実施日時	2023年1月25日18時00分～20時00分
実施場所	ZOOM ミーティング
登壇者	日本フェンシング協会 元専務理事 宮脇 信介 氏 日本フェンシング協会 ハイパフォーマンスディレクター 青木 雄介 氏 *現役アスリート 徳南 堅太 氏 *現役アスリート 小林 かなえ 氏
参加人数	78名

**SCSCサロン参加延べ人数 329名**

### (3) プロジェクトの推進

#### ①アスリートキャリアコーディネーターの育成

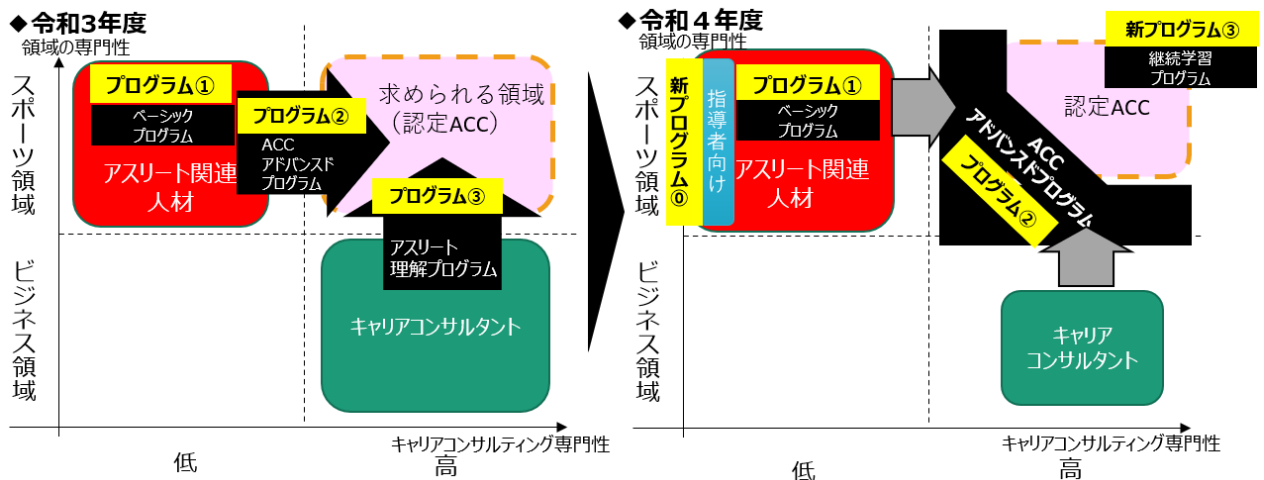
##### 1) 計 画

令和3年度に開発した3つの ACC 育成プログラムを踏まえターゲットごとに4つのプログラムに再編し実施する。

- i) プログラム⑩指導者向けガイダンスプログラム ⇒ (新設)
- ii) プログラム①ACC ベーシックプログラム ⇒ (昨年踏襲・改善)
- iii) プログラム②ACC アドバンスドプログラム  
⇒ (昨年アドバンスドプログラムとアスリート理解プログラムを統合再編)
- iv) プログラム③ACC 継続学習プログラム ⇒ (新設)

\* 令和3年度はキャリアコンサルタント等の有資格者へのアプローチを強化したが、令和4年度は、アスリート関連人材（指導者層）へのアプローチを強化する方針

・ プログラムを再編成 ( 令和3年度 ) ⇒ ( 令和4年度 )



合計 300 名規模の受講者数を想定

##### 2) 実 績

###### i) プログラム⑩ 指導者向けガイダンスプログラム (映像企画)

指導者向けガイダンスプログラムについては、映像企画としてコンテンツ化を行った。指導者は日頃の関わりの中でアスリートのキャリア（人生）に非常に大きな影響力を持っていることを実感していただくこと、また、アスリートをパフォーマンス向上以外に心理的・社会的側面など包括的に捉えて各専門家とも協力しながら、キャリア支援することが、競技力向上にもつながることを知っていただくことを目的に映像コンテンツを作成した。

## 【映像コンテンツ構成】

	セクション	内 容
1	オープニング	ナレーション
2	室伏長官メッセージ	アスリートのキャリア形成において指導者の役割の重要性を理解してもらう
3	資料投影（ナレーション）	・キャリア支援の現状・これからの指導者に求められること etc.
4	高橋会長	アスリートのキャリア支援は、競技力向上にもつながる。 包括的な支援が世界の潮流。
5	アスリートインタビュー	小野 真由美 氏（フィールドホッケー）
6	アスリートインタビュー	外池 大亮 氏（サッカー）
7	室伏長官メッセージ	アスリートが競技者としての成長と人としての成長を感じられるように、指導者の皆さんにはキャリア形成の支援をお願いしたい。
8	エンディング	告知等

映像コンテンツは、スポーツ庁の YouTube へ UP し、オンデマンドで視聴可能な形とした。

アーカイブ URL

<https://www.youtube.com/watch?v=dDKfISyGKBg>

公益財団法人日本スポーツ協会（JSPO）の協力により、公認スポーツ指導者 14 万人超へ視聴案内のメール DM を送信することができた。（3月8日時点 視聴数 401 回）

また、指導者が自組織、自チームのキャリアサポートを考える際の参考となるように、後述の SCSC キャリアセンターの取り組みとして本年度行ったスポーツチームや組織単位でのキャリア形成支援の取り組み事例の映像も参考事例としてアーカイブをしている。

<キャリア支援プログラム事例>

コンソーシアムが行ったキャリア支援プログラム例

→キャリア支援プログラム実践例① 水戸ホーリーホック（サッカー）

→キャリア支援プログラム実践例② レジックスポーツ（体操）

<https://mooga.jp/play/onservice/d1UDYSRI062QNXIJFWG0495J3WN6Z7Y4>

今後、指導者層にアスリートのキャリアについて考えるきっかけとして視聴いただけるように広報等を積極的に行い活用していく。

## ii) プログラム①ベーシックプログラム

昨年度のプログラムを踏襲しつつ、スポーツ心理学的な要素を新たに盛り込み実施。

### 受講対象者

- ・スポーツチームの指導者、コーチ、トレーナー、スタッフ等運営に関わる方
- ・スポーツ関連団体のキャリア教育担当
- ・アスリート、元アスリートでキャリア分野の勉強をしたい方
- ・企業のアスリート支援部署の方
- ・人材関連企業のキャリアアドバイス担当の方 など





### 申込者の属性

		令和3年度(n=178)	令和4年度(n=100)
スポーツ関連業務に従事しているか			
	専業として従事している	56%	51%
	副業・ボランティアとして従事している	25%	22%
	いいえ	19%	27%
アスリートのキャリア形成支援の実務経験について			
	ある	41%	34%
	ない	59%	66%

令和3年度と4年度の比較においてはスポーツ関連業務以外、アスリートのキャリア形成支援の実務経験のない層の申込が増加しているが、全体傾向としては大きな変化はなかった。

## 令和4年度 ベーシックプログラム 講師

### 【講師陣】

<b>Day1</b> (11月1日) アスリートの キャリアの 環境理解と キャリア理論		<b>高橋 義雄</b> スポーツキャリアサポートコンソーシアム会長 筑波大学体育系准教授 博士（スポーツウエルネス学） 日本卓球協会評議員 日本女子ソフトボールリーグ機構監事		<b>田中ウルヴェ 京</b> スポーツ心理学者（博士） 慶應義塾大学特任准教授 国際オリンピック委員会マーケティング委員 日本スポーツ心理学会認定スポーツメンタルトレーニング上級指導士 トップパフォーマンスの心理コンサルティングに携わる
<b>Day2</b> (11月7日) アスリートの 能力の診断と 分析		<b>川島 隆一</b> 川島事務所代表/GCDF-Japanキャリアカウンセラー プロスポーツクラブ経営支援、学生アスリートキャリア支援など スポーツに関わる経験多数		
<b>Day3</b> (11月14日) 対話力向上 トレーニング		<b>網野 千文</b> キャリアカウンセリング協会専任講師・スーパーバイザー 東京大学キャリア・サポート室設立 1級・2級キャリアコンサルティング技能士（国家技能検定） 国家資格キャリアコンサルタント		



## 【ベーシックプログラム】

Day1		
①	環境理解	アスリートキャリアの課題について、アスリートを取り巻く昨今の環境を理解する
②	ACC の理解	ACC が必要とされた背景を知り、ACC の役割と実際の活動について理解する
③	キャリア理論	理論や事例をもとに、終身雇用が保証されない今日の流動化した社会環境のなかでアスリートのキャリアアトランジションを、どのように捉えるかについて考えを深める
④	アスリート特有の課題	アスリートのキャリアアトランジションに特有のさまざまな課題について理解する
⑤	次回までの課題	(自分の社会人基礎力テストの結果の読み込み)
Day2		
①	アスリート理解	Day1 の宿題：自身のテスト結果をみながら診断テストのツールとしての理解を深める
②	社会人基礎力の概念理解	社会人基礎力の概念理解
③	ケーススタディ	アスリートのテストのサンプリングデータおよびプロフィールデータ例を題材に支援計画を考える (グループ議論)
④	解説	ケース解説
Day3		
①	対話の基本スキル	相談を受けるときに最も大切な基本スキル「聴くこと」 相談者 (アスリート) の視点と自分 (ACC) の視点のギャップの理解
②	実践トレーニング (ロールプレイ)	アスリート役と ACC 役に分かれ、アスリートの相談にのるトレーニングを実施 小グループに分かれ相談場面を体験してみる (各グループにトレーナーを配置)
③	まとめ	Day 3 を通した学びの整理 < 1 対 1 でのキャリア支援の基本 >
④	全体まとめ	Basic プログラムのまとめ

## 実績) ベーシックプログラム実施状況

実施日時	Day1 2022 年 11 月 1 日 (火) 18:00~21:30 Day2 2022 年 11 月 7 日 (月) 18:00~21:30 Day3 2022 年 11 月 14 日 (月) 18:00~21:30
受講者数	101 名 (84 名受講完了)
課題提出者	82 名
修了証発行	82 名

### iii) プログラム②アドバンスドプログラム

昨年度、キャリアコンサルタント等の有資格者向けに設定していたアスリート理解プログラムを廃止し、アドバンスドプログラムへ統合した。昨年度のプログラムを踏襲しつつ、Day2 を昨年の企業視点を中心としたセッションから本年度はアスリート、指導者、企業のそれぞれの視点でのセッションへ変更した。

- 【受講条件】 \* 令和2年・3年度 ACC 育成プログラムベーシックコースを修了していること  
 (受講修了見込み段階での申込みは可能。修了した時点で受講確定)  
 \* キャリアコンサルタント等の有資格者はベーシックコース修了は求めない。

本年度(令和4年度)は、キャリアコンサルタント等有資格者は、1 Day のアスリート理解プログラムの廃止にともない、ベーシックコースは必須とせずアドバンスドコースからの受講を可とした。3 日間(10.5 時間)のプログラムとハードルが上がったこともあり、本年度の新規のキャリアコンサルタント等有資格者の新規受講者数は 121 名(本年度受講者 146 名から昨年の認定者 25 名を除く)となった。キャリアコンサルタント等有資格者の受講人数は昨年の 1Day のアスリート理解プログラム受講者数の 760 名からは大きく減少したが、課題提出率などからもわかるように実際に ACC として活動したいという意志のある層の参加者を集めることができたと考えている。

令和4年度	アドバンスドコース		
	受講者合計	Basic 修了者	キャリアコンサルタント等有資格者
受講修了	225 名 (既認定者 25 名含む)	79 名	146 名 (認定者 25 名含む)
課題提出対象者	200 名	79 名	121 名
提出者	192 名 (課題提出率 96.0%)	73 名 (課題提出率 92.4%)	119 名 <b>(課題提出率 98.3%)</b>
認定トータル	171 名	70 名	101 名

参考) 昨年度(令和3年度)、キャリアコンサルタント等有資格者向けに設定したアスリート理解プログラムの受講者数(1期・2期ともに3.5時間の1Dayプログラム)

	第1期	第2期	合計
受講者数	349 名	411 名	760 名
課題提出者	218 名	204 名	422 名
認定者	211 名	198 名	409 名

**課題提出率 55.5%**

## 令和4年度 アドバンスドプログラム 講師

### 【講師陣】

DAY1  
アスリート理解および仕事探索  
ビジネスシーンへの翻訳



**川島 隆一** かわしま りゅういち

川島事務所代表／GCDF-Japanキャリアカウンセラー／  
大学生、社会人の人材育成に従事。プロスポーツクラブ経営支援、学生アスリートキャリア支援などスポーツに関わる経験多数／トライアスロン歴30年。アイアンマン世界選手権に18回出場



**諏訪部 彩** すわべ あや

元ソフトボール実業団選手（日立に所属）/高校時エースとして全国大会三冠/1999年世界女子ジュニア選手権代表（優勝）/国家資格キャリアコンサルタント/現在株式会社アイトカム・代表取締役社長。実業団時代は思うような結果が出せず挫折を経験。引退後はスポーツとは別の道を志し、専門学校のビジネス学科の講師、経営コンサルタントを経て、現在は独立し自身の経験を活かして発達障害と向き合う親子へのサポートサービスを提供。



**神川明彦** かみかわ あきひこ

なでしこリーグ1部・スフィーダ世田谷FC監督／東京23FCクラブアドバイザー／鎌倉インターナショナルFCアドバイザー兼ジュニアスクールメインコーチ／明治大学付属明治高等学校・中学校サッカー部総監督／株式会社フットメディア・サッカー解説者 明治大学体育会サッカー部監督時に、現日本代表の長友佑都選手をはじめ、約50名のリーガーを輩出している。



**山谷 拓志** やまや たかし

静岡ブルーレヴズ株式会社 代表取締役社長

1970年生度大卒93年リクルート入社。アメフト選手としても活躍し96年度98年度ライスボール優勝。00年選手引退後アシスタントGM兼コーチ就任02年度日本社会人選手権優勝。リンクアンドモチベーションを経て07年に栃木ブルックス創設。設立3年目で日本一となり黒字化を達成。日本バスケットボールリーグ専務理事を経て14年より茨城ロボッツ社長就任。経営を再建し21年にB1リーグ昇格を果たす。21年6月から現職。



**田沼泰輔** たぬま たいすけ

株式会社ダイバーシティ総合研究所代表取締役所長／事業構想大学院大学特任教授  
学習院大学非常勤講師／事業構想修士（専門職）／国家資格キャリアコンサルタント／キャリアカウンセリング協会認定スーパーバイザー／GCDF-Japanキャリアカウンセラー。組織のダイバーシティマネジメント推進に向けた多様な支援活動を展開。昨年度からACCとしてアスリートのキャリア開発支援やACC資格取得を目指す方々の育成指導にも本格的に参画する。

DAY2  
アスリート指導者  
企業・雇用者それぞれの視点からみたキャリア支援



**八田 茂** はた しげる

(株)リクルートで20年間人材系ビジネスに従事し、キャリアコンサルタント資格GCDF取得。その後スポーツ界に転じ、Jリーグで日本初の選手引退後支援部署【Jリーグキャリアサポートセンター】責任者を10年、日本オリンピック委員会でもオリンピックマイナー競技選手やパラリンピック選手の現役続行支援【アスナビ】を10年担当。その後日本バレーボール協会専務理事、東京2020オリパラ組織委員会サッカー宮城スタジアム会場責任者を務め、現在は、アスリートやプロスポーツチームを活用した、全国の地方自治体のスポーツ地域創生コンサルティングに取り組んでいる。



**坂田 賢二** さかた けんじ

社会人野球の内野手としてプレー。引退後、日本プロ野球OBクラブにてプロ野球選手のキャリアサポート体制を構築した後、リクルートにて16年間、顧客のキャリア開発支援等に従事。現在は文化・スポーツを通じた組織活性やプロ野球選手（NPB2球団）のキャリアサポートを担当する傍ら、東京ヴェルディ・バンバークにてU-15軟式野球のコーチを務める。

DAY3  
組織・チーム等  
集団への  
ファシリテーション

## 【アドバンスドプログラム】

Day1		
①	「Can」視点の 職業探索を体感する	ケーススタディ（事前個人ワーク）
		ケーススタディ（グループワーク）
		全体共有 補足説明
②	「Will」を探る	参加者自身のWillを探る（個人ワーク→グループワーク）
		全体共有 補足説明
③	アスリートの取り組みを ビジネスシーンに ‘翻訳’する	実在アスリートにあてはめる（個人ワーク→グループワーク）
		全体共有補足説明
④	まとめ	
Day2		
①	コミュニティ形成	Teamlancer 活用
②	アスリート視点	アスリートとしてのキャリアトランジションの実例
③	指導者視点	指導者としてのキャリア支援の実例
④	企業視点	企業・雇用側のアスリートキャリア支援事例
⑤	まとめ	ACCとしての支援ポイント
Day3		
①	集団への ファシリテーション	自分の所属するチーム・団体等への啓蒙活動
②	ネットワーク形成 と連携	企業人事・経営者とのネットワークの作り方 人材会社との連携の方法
③	まとめ	自分自身のキャリアステップ 継続学習の重要性
④	最終課題	課題発表

### 実績) アドバンスドプログラム実施状況

実施日時	Day1 2022年11月28日(月) 18:00~21:30 Day2 2022年12月5日(月) 18:00~21:30 Day3 2022年12月12日(月) 18:00~21:30
受講者数	234名(225名受講完了)
課題提出者	192名
認定証発行	171名

## 令和4年度のアスリートキャリアコーディネーター育成実績

	受講者数	修了数（認定数）
ベーシックプログラム	101名	修了証 82名
アドバンスドプログラム	234名	認定証 171名
トータル	335名	

受講者数 ベーシック 101名+アドバンスド 234名 = 335名（目標値 300名）

本年度 計 171名のアスリートキャリアコーディネーター（ACC）を認定

昨年度の認定者492名と合わせて ACC認定者は、663名 となった。

キャリアコンサルタント等有資格者 昨年度 409名+本年度 101名 = 合計 510名

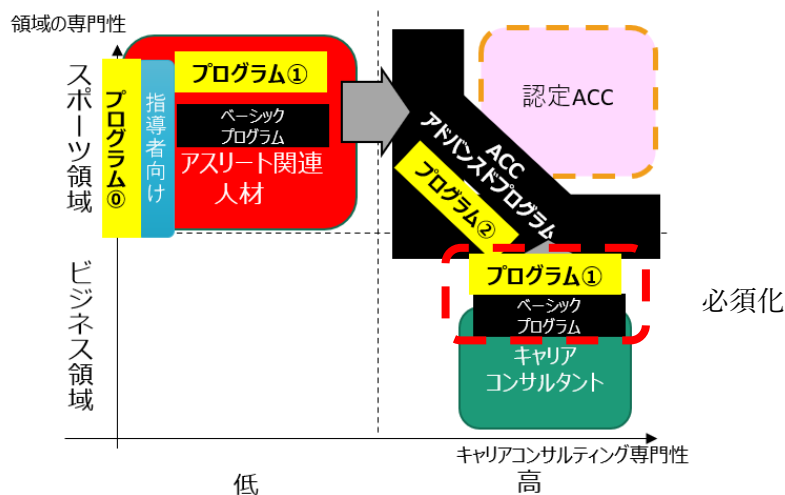
アスリート関連人材 昨年度 83名+本年度 70名 = 合計 153名

### iv) プログラム③継続学習プログラム

ACC認定者向けの継続学習プログラムについては、前述のSCSCサロンとの合同企画とすることで4回実施。

#### 【次年度への課題】

\*前述の通り、本年度は、キャリアコンサルタント等有資格者についてアドバンスドプログラムを必須とし、ベーシックプログラムの受講は任意としたが、ベーシックプログラム受講希望者が一定数いたこと、またアドバンスドプログラムのみを受講したキャリアコンサルタントからベーシックも受けたほうがいい、という声をいただいた。来期については、キャリアコンサルタント等有資格者も他の受講者と同様にベーシックプログラムおよびアドバンスドプログラムの両方のプログラムを受講することを必須とする方向で改定すべきと考えている。



## ②スポーツ界横断のキャリアセンターの試行的設置（ACCの活用）

### 1) 計 画

アスリート、指導者等が「いつでも、どこでも気軽に利用できる」ようにオンライン上にキャリアセンターを開設する。

ACC 認定者の中で SCSC キャリアセンターでの相談員として登録希望者を募り、プロフィール等の情報を登録。アスリート等の相談希望者は、サイトから ACC を指定してオンライン面談を申し込むことができ、面談記録も残せる簡易サイトを試行的に設置し、運用する。インターンシップ情報や各種セミナー等のイベント情報等も提供する。

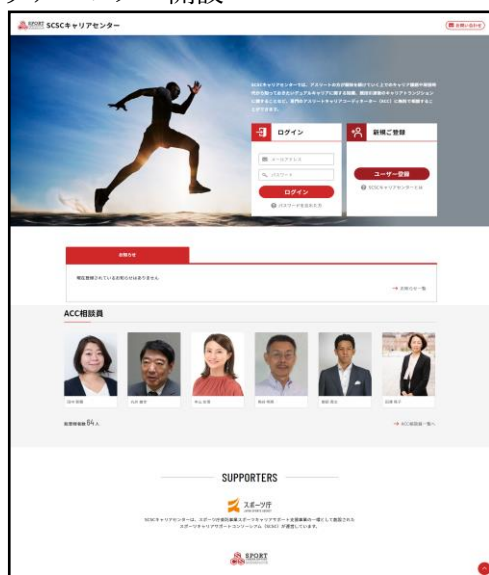
SCSC キャリアセンターの機能は、団体ごとにカスタマイズ可能な作りとする。

団体ごとに自団体の相談員として ACC を限定することができるとともに自団体のスタッフなどの登録も可とする仕様とし、団体のニーズに合う形で提供する。

### 2) 実 績

2022 年 11 月 8 日に ACC64 名を登録し、SCSC キャリアセンターをオープンした。ACC の閲覧・検索、相談申込・オンライン面談実施、インターンシップ情報の提供・申込等の機能を実装した。リアルなキャリア研修とセットで 1 on 1 の面談を実施する形のトライアル等を実施。

#### キャリアセンター開設



#### オンライン面談実施までの流れ

ユーザー登録し、ログインするとスポーツ選手専門のアスリートキャリアコーディネーター（ACC）のオンラインカウンセリングが受けられます。

-  **ACCのプロフィール情報の閲覧**  
みなさんのキャリア相談に対応可能なアスリート専門のアスリートキャリアコーディネーター（ACC）のプロフィール情報を閲覧できます。
-  **相談したいACCを探す**  
元オリンピックやさまざまな競技経験、さまざまな仕事の経験をもってきたACCの中から相談したい相手を探すことができます。同じ競技の経験やご自身のスポーツ以外の関心ごとに近い仕事をされている人などさまざまな観点から相談したい人を探してみてください。
-  **オンラインで相談依頼ができる**  
相談したいACCが見つかったらオンライン相談依頼をシステムから出すことができます。日程調整などもシステムを通して行うことができますので個人のメールアドレスなどの連絡先を公開する必要はありません。
-  **面談日程の確定**  
相談依頼をしたACCからシステム上で面談日程についての連絡、日程確定の連絡がはります。日程が確定するとオンライン会議室（ZOOM）の予約も自動的に設定されます。
-  **オンライン面談の実施**  
面談日時になったらシステムからオンライン会議室に入室してACCとの面談が可能です。

<https://acc.sportcareer.jp/>

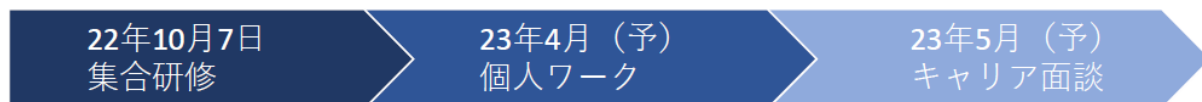


SCSC キャリアセンターの活動の1つとしてチーム・団体単位でアスリート向けキャリア研修の実施事例づくりに取り組んだ。

【実施事例1】

・水戸ホーリーホック 10月7日(金) 14時～16時 実施 参加者 13名

チーム名	水戸ホーリーホック
競技・競技レベル	プロサッカーチーム J2所属 (2022.10時点)
参加人数・年齢帯	選手13人 20才～45才
チームの課題	<p>【プロサッカー選手の抱える課題とチームの方針】</p> <p>サッカーエリートとして常に周囲の脚光を浴びながら生きてきた選手は、限られたコミュニティや人としか接しておらず、社会性や一般教養が身につけにくい環境である</p> <p>プロアスリートとしての職業価値や地域における社会的な存在価値の高さに気づく選手を一人でも多く輩出していきたい</p>
キャリア支援プログラムの狙い	プロアスリートとしての価値向上、及び人間的成長をサポートし、その先にある自分らしい「キャリア」を描き、実現していく





**MAKE VALUE PROJECT**  
セカンドステージ キックオフ

令和4年10月7日(金)  
スポーツキャリアサポートコンソーシアム

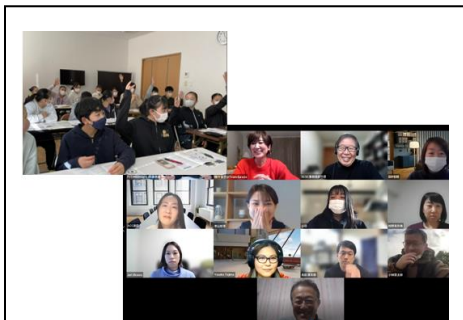
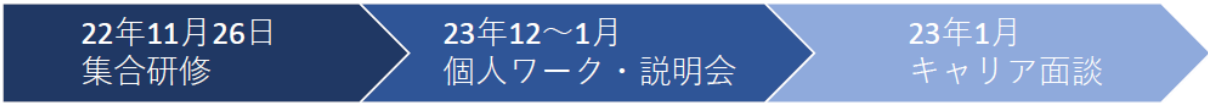


令和4年度は集合研修を実施、令和5年度にはACCとの1on1の面談サポートを予定している。

【実施事例2】

- ・レジックスポーツ 11月26日(土) ヴィジョンワークショップ 参加者22名
- 1月15日(日) アスリート向け勉強会実施 参加者20名
- 1月16日(月)～2月末 キャリア面談の実施

チーム名	レジックスポーツ
競技・競技レベル	体操 日本代表・全日本レベル
参加人数	選手22名 中1～高3 + 希望保護者がオブザーブ
チームの課題	レジックスポーツのスローガン 「人となり、競技者になろう」  競技力を上げるだけでなく、その取り組みを通じ、人としての成長も実現したいという想いで、体操選手としての目標、人生としての目標を言語化し、達成するための取組を具体化させている。
キャリア支援プログラムの狙い	体操に打ち込む意味や意義を、人としての成長という観点からとらえなおす。その上で、ビジョン・アクションプランを言語化し、主体性をもって体操に取り組めるようにする。



レジックスポーツ用に  
カスタマイズしたキャリア  
センターサイトを用意





下記4団体でも同様にアスリート向けのキャリア研修を実施した。

- ・琉球アスティーダ 12月14日(水) 18時～20時 9名
- ・千葉経済大学 1月27日(金) 16時30分～19時 23名(新3年・新4年生対象)
- ・名古屋経済大学 1月28日(土) 15時～17時30分 32名(新3年・新4年生対象)
- ・海星高校(三重県) 1月29日(日) 13時～15時30分 42名(新3年生対象)

令和4年度のSCSCキャリアセンターの活動実績としては、

- ・面談実績53件
- ・キャリア研修受講者人数 141件 総累計194件となった。

・SCSCキャリアセンター活動実績

ネット利用	10月	11月	12月	1月	2月
新規登録申請数	-	15	3	21	3
有効登録数計	-	13	14	35	36
相談予約数	-	1	1	35	16
相談累計	-	1	2	37	53
研 修	10月	11月	12月	1月	2月
アスリート向け キャリア研修受講人数	13	22	9	97	0
受講人数累計	13	35	44	141	141
総累計	13	36	46	178	194

【次年度への課題】

告知が十分でないこともあり自主的な登録人数は伸び悩んでいる。また「見ず知らずの第三者」に相談依頼をすることはハードルが高いと思われる。一方で、ACCとの面談をしたアスリートは、ほとんどが複数回の面談に進んでいる。

来年度は、SCSCキャリアセンターの認知UPおよび面談に至るきっかけづくりが必要と考えている。その一つとして、チーム単位、組織単位で受講するキャリア研修をまずは展開し、その後に1on1のキャリア面談等をセットする形が有効と考えている。

### ③会員団体の連携・協働によるプロジェクトの推進

#### 1) 計 画

協働プロジェクトは会員企業から募集し、実施プランを決定する。

- i) 高校・大学・競技団体（チーム）・地方自治体等と連携しアスリート向けキャリアプログラムの実施
- ii) アスリートのインターンシップの実施                      等

#### 2) 実 績

##### i) アスリート向けキャリアプログラム

協働プロジェクトとして下記のアスリートに対してキャリア研修を実施。（キャリアセンターとしての活動の1つとしても位置付けている。前述の通り）

SCSC 会員団体との協働プロジェクトとしてキャリア研修を実施

- ・水戸ホーリーホック    10月 7日（金）キャリア研修    参加者 13名
  
- ・レジックスports        11月 26日（土）ヴィジョンワークショップ実施    参加者 22名  
                                  1月 13日（金）スタッフ向け勉強会実施                参加者 16名  
                                  1月 15日（日）アスリート向け勉強会実施            参加者 20名  
                                  1月 16日（月）～2月末にかけて ACC との 1on1 面談を実施
  
- ・琉球アスティーダ      12月 14日（水）キャリア研修（オンライン開催）    参加者 9名

SCSC 会員団体からの推薦に基づき、下記大学および高校でキャリア研修を実施

- ・千葉経済大学            1月 27日（金）キャリア研修    参加者 23名（新3年・新4年生対象）
- ・名古屋経済大学        1月 28日（土）キャリア研修    参加者 32名（新3年・新4年生対象）
- ・海星高校（三重県）    1月 29日（日）キャリア研修    参加者 42名（新3年生対象）

##### ii) アスリート向けインターンシップの実施

インターンシップについては、12月10日～ SCSC キャリアセンター上に下記12社の募集情報を掲示、参加を呼び掛けたが、本年度も参加者はゼロとなった。

##### **【次年度への課題】**

アスリート個々人が、自らの意思でインターンシップに申込み形の実施形態では、参加のハードルが高いと思われる。競技団体・チーム等と連携し、インターンシップガイダンスから申込、参加、実施後フォローまでの運営形態を見直す必要がある。

## 【インターンシップ募集案件一覧】

企業名	インターン内容
ぴあ株式会社	プロスポーツ興行のチケット販売・集客・マーケティング業務の体験
株式会社ナカムラロジスティクス	営業・通関・物流管理業務・情報システム・総務人事・経理・他
株式会社 JoB-up	キャリアアドバイザー体験
ユニークビジョン株式会社	SNS キャンペーンディレクター
株式会社エンファクトリー	セールス／企画／カスタマーサクセス
有限会社レジックススポーツ	事務職員・体操教室サポートスタッフ・体操競技指導スタッフ 体験
バーソルキャリア株式会社	バーソルキャリアが運営するスポーツ業界特化したメディア「SPORT LIGHT」をはじめスポーツ関連プロジェクトに参加する企画職 募集
アーティクルキャリア株式会社トーコー	ドライバー 兼 サッカースクールコーチ
株式会社トップランク	営業（販売・買取）体験
株式会社マリモ	マンション営業職 体験（全国対応）
株式会社アーシャルデザイン	広報/PR、SNS マーケティング
株式会社ミストラル	経営者と話し、その生き様・人生観に触れる実践型営業体験インターン

## （４）情報発信コンテンツの充実

### 1) 計 画

#### i) ロールモデルのコンテンツ化

ビジネスと競技を両立させている現役アスリートの事例や引退しキャリアチェンジをして現在ビジネス領域で活躍している元アスリートの事例をさまざまな競技分野からピックアップし、掲載することでロールモデルの充実を図る。昨年度 6 名にとどまったロールモデル取材、コンテンツ化を本年度は拡充・実行する。20 名程度を想定。

#### ii) メディアミックスによる情報発信

ロールモデルコンテンツを SCSC のホームページ上へ UP するとともに Facebook および Twitter 等の SNS に UP し、拡散を図る。

#### iii) SCSC キャリアセンター設置のプレスリリース等

#### iv) SCSC アンバサダー（仮称）

会員団体、認定 ACC および SCSC の活動に理解のあるアスリート、元アスリート等の中でアスリートのキャリアサポートについて情報発信に協力してくれるスタッフを SCSC アンバサダーとして認定し、SCSC の認知拡大を進める。

#### v) カンファレンスの開催

22 年度においても引き続き、アスリートという貴重な人的資産が生涯にわたって社会に貢献できるように、大きなムーブメントにつなげていく場としたい。2 年連続での「無観客」での開催となっているが、コロナ等の感染状況にもよるが本年度においてはリアルと WEB のハイブリッド開催としたい。本年度は開催時期を 3 月から 2 月に前倒して、開催する計画。

## 2) 実績

### i) ロールモデルのコンテンツ化

本年度下記の18名の取材・記事化を実施。目標値の20名には届かなかったもののSCSCホームページに掲載されているロールモデルは、期初掲載人数14名から32名へと大きく伸ばすことができた。一方で対象アスリートの競技の幅を広げることや定期的なコンテンツの更新および告知の連携等については課題が残った。

No	対象者	種目	公開	No	対象者	種目	公開
1	田島 創志	ゴルフ	9/5 公開済	11	秋本 啓之	柔道	1/20 公開済
2	中原 正義	ラグビー	9/16 公開済	12	樽野 恵	バドミントン	1/27 公開済
3	山崎 輝江	バレーボール	9/28 公開済	13	荒井 美帆	アーティスティック スイミング	2/7 公開済
4	下島 千穂	バレーボール	10/5 公開済	14	黒川 真緒	バドミントン	2/17 公開済
5	野澤 武史	ラグビー	10/21 公開済	15	葛城 育郎	野球	3/3 公開済
6	鈴木 啓太	サッカー	11/2 公開済	16	小林 勇斗	オープンウォーター スイミング	3/10 公開済
7	西山 将士	柔道	11/17 公開済	17	安部 篤史	アーティスティック スイミング	3/22 公開済
8	石川 直宏	サッカー	12/8 公開済	18	志水 祐介	水球	3/27 公開済
9	佐田 樹里	バレーボール	12/20 公開済				
10	伊藤 護	ラグビー	12/26 公開済				

## 令和4年度ロールモデルページ掲載者一覧



ゴルフ

田島 剣志「ツアープロとして一生やる夢を見続け 裏で日本のプロゴルフを盛り...



ラグビー

中原 正義「今の自分があるのは、大事にしてきた人とのつながり」



バレーボール

山崎 輝恵「どんな道でも自分次第で切り開ける 何一つ、無駄な経験はない」



バレーボール

下島 千穂「チャレンジする事が未来につながる。できない事なんて何一つ無い...



ラグビー

野澤 武史「アスリートは引退後がピークになるのではなく、引退後に価値を高...



サッカー

鈴木 啓太「引退後の自分の姿をイメージし、それに必要なアクションを1日1時...



柔道

西山 将士「自分が経験したからこそ考えられる、アスリートと20代若者のキャ...



サッカー

石川 直宏「自分を知り、そして深ぼる」ことを積み重ねてほしい。」



バレーボール

佐田 樹里「願いは幸せな女性をふやすこと」



ラグビー

伊藤 諺「ポジティブな言葉を優先し、常に好奇心を持ち続ける大切さを伝えた」



柔道

秋本 啓之「国技である柔道をより多くの人に知ってもらいたい、そして柔道に...



バドミントン

樽野 恵「アメリカでもっともっと多くの人にバドミントンを広め楽しんでもら...



アーティスティックスイミング

荒井 美帆「自分の「好き」に向かって動き続ける」



バドミントン

黒川 真緒「現役後もやりがいを見つけてほしい」



野球

葛城 育郎「人脈よりも人徳を」プロと言う肩書はプロのときだけ。自分自身...



オープンウォータースイミング

小林 勇斗「私の役割は、選手が最高のパフォーマンスができるようサポートす...



アーティスティックスイミング

安部 篤史「悩みや挫折を経験しながら大きくなった夢、そして実現。自分を...



水球

志水 祐介「アスリートは永遠のヒーロー的存在に」

計 18 名

## ii) メディアミックスによる情報発信

ACC 育成プログラム実施告知、ロールモデル掲載告知等の記事を SCSC ホームページ、Facebook および Twitter へ随時掲載。

特にキャリアセンタースタート、インターンシップ募集、カンファレンスの告知においては Facebook、Twitter 等の投稿記事にプロモーションを付けたことでリーチの拡大ができた。

SCSC ホームページ



Twitter 投稿例



Facebook 投稿例



## Facebook 投稿一覧

《集計日：令和4年3月18日 11:00 時点》

No.	内容 (タイトル)	更新日	リーチ	エンゲージメント
1	令和4年度ベーシックコース募集告知①	令和4.8.31	2,556	427
2	令和4年度ベーシックコース募集告知②	令和4.9.2	430	64
3	ロールモデル掲載告知 (ゴルフ)	令和4.9.7	623	36
4	令和4年度ベーシックコース募集告知③	令和4.9.21	1,593	179
5	令和4年度アドバンスドコース募集告知①	令和4.10.17	1,679	220
6	ロールモデル掲載告知 (ラグビー)	令和4.10.24	346	42
7	ロールモデル掲載告知 (バレーボール)	令和4.10.25	278	25
8	ロールモデル掲載告知 (バレーボール)	令和4.10.25	335	25
9	ベーシックコース Day1 開催報告	令和4.11.2	866	210
10	SCSC キャリアセンター開設告知	令和4.11.8	1,700	274
11	SCSC キャリアセンター機能告知	令和4.11.13	380	46
12	ベーシックコース終了報告	令和4.11.15	1,632	148
13	SCSC サロン第3回 (ホーリーホック) 実施報告	令和4.11.22	1,175	265
14	レジックススポーツ研修実施報告	令和4.11.29	1,301	132
15	アドバンスドコース Day1 開催報告	令和4.11.30	531	153
16	ロールモデル掲載告知 (ラグビー)	令和4.12.5	870	87
17	インターンシップ募集開始告知①	令和4.12.19	4,626	184
18	ロールモデル掲載告知 (サッカー)	令和4.12.20	1,024	76
19	インターンシップ募集告知②	令和5.1.21	25,500	335
20	インターンシップ募集告知③	令和5.1.27	738	55
21	カンファレンス 2023 告知①	令和5.2.10	3,206	537
22	カンファレンス 2023 告知②	令和5.2.13	243	48
23	カンファレンス 2023 告知③	令和5.2.17	34,814	3,998
24	カンファレンス 2023 告知④ (新聞告知報告)	令和5.2.18	1,079	104
25	カンファレンス 2023 当日告知①	令和5.3.4	485	63
26	カンファレンス 2023 当日告知②	令和5.3.4	1,493	240
27	カンファレンス 2023 記事掲載報告	令和5.3.7	1,303	164
28	カンファレンス 2023 終(動画 UP 報告)	令和5.3.11	829	96

リーチ・・・・・・・・・・・・・・・・ ページのコンテンツを見たユーザー数 (推定値)

エンゲージメント数 ・ ・ 投稿に対するユーザーの反応の指標のこと。投稿でリアクション、コメント、シェア、ビュー、クリックなどのアクションが実行された回数



## Twitter 投稿一覧

No.	内容 (タイトル)	更新日	インプレッション	エンゲージメント
1	令和4年度ベーシックコース募集告知①	令和4.8.31	197	14
2	令和4年度ベーシックコース募集告知②	令和4.9.2	83	17
3	ロールモデル掲載告知 (ゴルフ)	令和4.9.8	210	4
4	令和4年度ベーシックコース募集告知③	令和4.9.21	127	9
5	ロールモデル掲載告知 (ラグビー)	令和4.10.24	81	0
6	ロールモデル掲載告知 (バレーボール)	令和4.10.24	69	4
7	ロールモデル掲載告知 (バレーボール)	令和4.10.24	60	3
8	ロールモデル掲載告知 (ラグビー)	令和4.12.5	71	3
9	ベーシックコース Day1 開催報告	令和4.11.2	351	18
10	SCSC キャリアセンター開設告知①	令和4.11.8	100,000	961
11	SCSC キャリアセンター開設告知②	令和4.11.13	128	9
12	ベーシックコース実施完了報告	令和4.11.15	290	28
13	SCSC サロン第3回 (ホーリーホック) 実施報告	令和4.11.22	360	51
14	インターンシップ情報掲載告知①	令和4.11.25	91	7
15	アドバンスドコース開催報告	令和4.12.1	143	29
16	インターンシップ情報掲載告知②	令和4.12.19	104	5
17	ロールモデル掲載告知 (サッカー)	令和4.12.20	115	10
18	インターンシップ情報掲載告知③	令和5.1.21	156	13
19	カンファレンス 2023 開催告知①	令和5.2.10	520	50
20	カンファレンス 2023 開催告知②	令和5.2.13	2,562	98
21	カンファレンス 2023 開催告知③	令和5.2.17	180,000	3,098
22	カンファレンス 2023 新聞告知報告	令和5.2.18	159	7
23	カンファレンス 2023 実施報告①	令和5.3.4	270	10
24	カンファレンス 2023 実施報告②	令和5.3.7	139	13
25	カンファレンス 2023 動画アーカイブ	令和5.3.11	912	23

インプレッション数・・・ツイートが Twitter で表示された回数

エンゲージメント数・・・ユーザーがツイートに反応した合計回数。ツイートのクリック

(ハッシュタグ、リンク、プロフィール画像、ユーザー名、ツイートの

詳細表示のクリックを含む)、リツイート、返信、フォロー、いいねを含む。



### iii) SCSC キャリアセンター設置のプレスリリース等

SCSC キャリアセンター開設に合わせてチラシを作成。各 NF へ郵送。  
またチラシ原稿を Facebook、Twitter 等で展開。

チラシ



Facebook 投稿



### iv) SCSC アンバサダー (仮称)

正式にアンバサダー制度の実施・運用には至らなかったが SCSC キャリアセンターへ登録された ACC  
を中心に告知活動等を行っていただいた。  
また、アスリートキャリアコーディネーター (文字) および  
ACC の認定ロゴマークの商標登録も行った。



### 【今後の課題】

今後、ACC 認定ロゴの使用規定等を制定し、認定 ACC の方々に積極的に広報に活用いただけるようにしていく。

## v) カンファレンスの開催

本年度は、リアル会場とオンラインによるハイブリッドによる開催を実現することができた。  
実施時期については、運営委員のスケジュール等を鑑み3月4日（土）に実施することとなった。

### Athlete Career Challenge カンファレンス 2023

アスリート・指導者が知っておくべきアスリートキャリアの向上と  
ライフキャリアの関係 ～踏み出す一歩が、新たなキャリアを拓く～

- ◆開催日時：2023年3月4日（土）13：00～16：15
- ◆ライブ会場：トラストシティカンファレンス神谷町  
東京都港区虎ノ門4-1-1 神谷町トラストタワー2階
- ◆オンライン：ZOOM・YouTubeによるライブ配信

現地157名+ZOOM335名+当日視聴者ユニーク数258名 = 750名

今年度、JSPOの協力により当カンファレンスを公認スポーツ指導者の更新研修の1つと位置付けることができた。そのためメインターゲットとした指導者層の集客に大きな効果があった。

\*カンファレンス詳細については、第Ⅲ章および参考資料5)ー2 カンファレンス運営業務報告書 をご参照ください。

## (5) 今後に向けた検討

### 1) 計 画

#### ◆組織体制の検討

計画的な活動を安定的に行うため任意団体から一般社団法人またはNPO等の法人化を継続検討する。

#### ◆財務面での検討

昨年度、SCSCに寄附を受け入れられる体制を整備した。将来自走するための財源として企業からのスポンサーの獲得拡大を目指す。

⇒「組織の在り方検討委員会」を設置し、具体化に向けた検討を行う。

### 2) 実 績

組織の在り方検討委員会を設置し、今後のSCSCの方向性について検討を行った。

第1回 8月18日（浅川委員・高橋会長・竹原事務局長・スポーツ庁渡邊 事務局：曾我）

第2回 9月14日（浅川委員・高橋会長・竹原事務局長 事務局 曾我）

第3回 10月14日（浅川委員・高橋会長・竹原事務局長 事務局 曾我）

### 【今後の課題】

当検討委員会では、SCSCの自走化に向けて考えられる組織形態の選択肢および自主財源の可能性等について検討を行った。来年度において継続検討し、実行計画を取りまとめたい。

## ◆役割についての検討

### 1) 計 画

令和3年度においてSCSCの役割は下記の1)および2)と表記した。本年度この方向性で事業を進めるなかで見直しを図っていく。

#### i) キャリアサポートとしての機能

- ・ 競技・団体横断のキャリアセンター機能・相談窓口常設
- ・ アスリートキャリアコーディネーターの継続育成と配置
- ・ ビジネスパーソンとしてのトレーニング機能・コンテンツの提供

#### ii) デュアルキャリア教育の推進

- ・ 各NF、統括団体が主催するアスリート向けキャリア教育のサポート
- ・ アスリート向けキャリア教育プログラムの最新研究・開発
- ・ 指導者・保護者向けキャリア教育プログラムの開発

### 2) 実 績

本年度、SCSCキャリアセンターおよび会員との協働プロジェクトとして中学生・高校生のアスリート向けにキャリア教育プログラムをトライアル実施した。SCSCとして就学期におけるキャリア教育の必要性、重要性をあらためて認識した。またアスリートに対するキャリア教育、キャリア自立を進める上ではアスリート個人へのアプローチだけでなく、指導者、チーム等全体への働きかけが重要である。本年度は、JSPOおよびJOCのアスリート委員会との連携が進んだが、さらに統括団体、NF等との連携を深め、上記2つの役割に特化した機能組織として事業展開を行っていく。

## Ⅲ. Athlete Career Challenge カンファレンス 2023 の開催

スポーツ庁委託事業「令和4年度スポーツキャリアサポート支援事業」の一環として、SCSCが主催し、「Athlete Career Challenge カンファレンス 2023 アスリート・指導者が知っておくべきアスリートキャリアの向上とライフキャリアの関係 ～踏み出す一歩が、新たなキャリアを拓く～」を開催した。スポーツ庁委託事業としての「Athlete Career Challenge カンファレンス」は、昨年度に引き続き第4回目の開催となる。

### 1. カンファレンスの概要

○開催主旨 ※実施要項より

スポーツキャリアサポートコンソーシアムは、2017年2月にスポーツ庁委託事業の一環として、アスリートのキャリア形成を支援する体制を整備することを目指して創設されました。

本コンソーシアムでは、アスリートがスポーツで培った能力を発揮し、競技外のキャリアにおいて活躍することは、アスリート自身の人生の充実という点のみならず、アスリートが持つ価値を社会に還元するという点においても重要であり、アスリートの競技外での活躍は、スポーツの価値を高め、スポーツ参画人口の拡大、ひいては競技力の向上に資すると考えています。

本カンファレンスは、スポーツ団体等におけるキャリア支援施策の事例や、SCSCの運営を通じて培った知見を、現役アスリートやアスリートを支援する指導者、企業、団体等に広く発信し、アスリートのキャリア形成を支援するネットワークの拡大を図ることを目的としています。

## ○運営

### Athlete Career Challenge カンファレンス 2023

アスリート・指導者が知っておくべきスリートキャリアの向上とライフキャリアの関係  
～踏み出す一歩が、新たなキャリアを拓く～

◆開催日時：2023年3月4日（土）13:00～16:15

◆ライブ会場：トラストシティカンファレンス神谷町

東京都港区虎ノ門4-1-1 神谷町トラストタワー2階

◆オンライン：ZOOM・YouTubeによるライブ配信

ユニバーサル対応のためYouTube配信には手話通訳を導入

## ○プログラム概要

### 【スポーツ庁事業説明】

<登壇者>

・室伏 広治 氏（スポーツ庁長官）                      スポーツキャリアサポート支援事業について

### 【セッション1】

テーマ「アスリートのキャリアについて考える」

<登壇者>

・松田 丈志 氏（JOC アスリート委員会委員長）

・布施 努 氏（スポーツ心理学博士／（株）Tsutomu FUSE, PhD Sport Psychology Service 代表取締役）

・藤田 真也 氏（特定非営利活動法人キャリアカウンセリング協会 理事長）

### 【セッション2】

テーマ「指導者に求められるキャリア支援とは」

<モデレーター>

・田中 研之輔 氏（法政大学キャリアデザイン学部教授）

<登壇者>

Part1・古田 敦也 氏（スポーツコメンテーター（元プロ野球選手））

・渡邊 一樹 氏（スポーツ庁参事官（民間スポーツ担当）付 スポーツ人材係長）

- Part2・西村 卓朗 氏（株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホック取締役ゼネラルマネージャー）  
 ・岡崎 美穂 氏（有限会社レジックススポーツ取締役専務／アトランタ五輪 体操女子日本代表選手）  
 ・小沼 健太郎 氏（一般社団法人 Japan PDP 理事／東京サンリーサンゴリアス PDM）  
 ・池田 敦司 氏（一般社団法人大学スポーツ協会（UNIVAS）専務理事／仙台大学教授）

【セッション3】

テーマ：「アスリート人材への期待」

<モデレーター>

- ・田中 研之輔 氏（法政大学キャリアデザイン学部教授）
- ・本山 友理 氏（ACC 認定者／フリーアナウンサー）

<登壇者>

Part 1・佐々木 善浩 氏（株式会社フィルアップ代表取締役 CEO）

- ・倉田 秀道 氏（あいおいニッセイ同和損害保険株式会社広報部スポーツチーム統括 兼 経営企画部 特命部長）

Part 2・ACC 登壇者：廣田 純子 氏、春日 将司 氏、桧野 真奈美 氏、笹井 美千恵 氏、古市 健 氏

スポーツ庁 SPORTR 2023  
 Athlete Career Challenge カンファレンス2023

アスリート・指導者が知っておくべき  
 アスリートキャリアの向上とライフキャリアの関係  
 ～踏み出す一歩が、新たなキャリアを拓く～

松田 丈志氏 JOCアスリート委員会委員長  
 室伏 広治氏 スポーツ庁長官  
 古田 敦也氏 スポーツコメンテーター (元プロ野球選手)

「集まれ」アスリートの未来を築く者たち  
 ●社会人・学生アスリート ●アスリートの指導者  
 ●プロスポーツ選手 ●アスリート人材の採用を考えている企業

2023年3月4日(土) 13:00～16:15  
 リアル・オンラインでの開催になります。

参加方法 下記サイトまたは、QRコードよりお申し込みください。  
<https://sportsnet.yahoo.co.jp/acc/2023/03/04/>

申込締切:リアル▷2月25日/オンライン▷3月2日  
 トラストシティアンファレンス 神奈川 東京圏地区(アムニス) 神奈川トラストタワー 2階  
 ※リアル参加応募者多数の場合は抽選となります。 ※オンライン開催では手続通りとなります。

スポーツキャリアサポートコンソーシアム(SCSC)とは  
 2017年2月にスポーツ庁の依頼を受け、アスリートがキャリア形成を支援する体制を整備することを目的として創設された。現在、各分野で活躍しているアスリート(元選手)とSCSCにスポーツ庁、経済産業省、厚生労働省、国土交通省、文部科学省、労働政策研究・研修機構が連携して活動している。

開会挨拶・スポーツ庁事業説明

高橋 義雄 氏  
 スポーツキャリアサポートコンソーシアム会長  
 筑波大学人間総合科学学術院准教授

Session1(13:15～14:05) → 「アスリートのキャリアについて考える」

松田 丈志 氏 JOCアスリート委員会委員長  
 布施 努 氏 スポーツ心理学博士 (株)Tsutomu FUSE, PhD Sport Psychology Service 代表取締役  
 藤田 真也 氏 特定非営利活動法人 キャリアカウンセリング協会 理事長

Session2(14:15～15:20) → 「指導者に求められるキャリア支援とは」

古田 敦也 氏 スポーツコメンテーター (元プロ野球選手)  
 モデレーター 田中 研之輔 氏 法政大学キャリアデザイン学部教授 一般社団法人プロフェッショナルキャリア協会 代表理事

西村卓朗 氏 株式会社フットボールクラブ 水戸ホーリーホック 取締役ゼネラルマネージャー  
 岡崎 美穂 氏 有限会社レジックススポーツ 取締役専務  
 小沼 健太郎 氏 一般社団法人 Japan PDP 理事 東京サンリーサンゴリアス PDM  
 池田 敦司 氏 一般社団法人 大学スポーツ協会 (UNIVAS) 専務理事 / 仙台大学教授

Session3(15:25～16:15) → 「アスリート人材への期待」

① 企業事例  
 佐々木 善浩 氏 株式会社フィルアップ 代表取締役 CEO  
 倉田 秀道 氏 あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 広報部スポーツチーム統括 兼 経営企画部 特命部長  
 モデレーター 田中 研之輔 氏

② アスリートキャリアコーディネーター活動事例紹介  
 主催:スポーツキャリアサポートコンソーシアム(SCSC) 参加事業者:株式会社フォーチャータウン/仙台 講師:株式会社PDM

※参考資料5) - 1 カンファレンスチラシ

## 2. 集客状況および満足度

詳細については、参考資料5) - 2 カンファレンス運営業務報告書 参照

項目	定義	人数
当日参加者	当日に現地で参加した方の総数 (登壇者含む)	157名
当日参加者 (指導者参加者：現地)	当日に現地で参加した方公認指導者の総数	(19名)
当日視聴者 (zoom)	当日に zoom で参加した方の総数	335名
当日視聴者 (zoom 指導者)	当日に zoom で参加した公認指導者の総数	(249名)
当日視聴者 (YouTube)	当日に YouTube で視聴した方の数 (ユニーク視聴者数)	258名

現地 157名 + ZOOM 335名 + 当日視聴者ユニーク数 258名 = 750名

本年度、カンファレンスは、アスリート自身だけでなく、アスリートのキャリア形成に大きな影響力を持つ指導者層を集客のメインとした。

集客・広報にあたり JSPO に協力いただき当カンファレンスを公認スポーツ指導者の更新研修の対象と位置付けられたことで指導者層を大きく取り込むことができた。

リアル会場にも登壇者含め 150 名を超える参加者を集めることができた。

一方で 3 月の中旬というスポーツ活動が盛んになるタイミングでの土曜日午後開催という日程の問題も考えられるが、現役アスリートの集客は昨年につきのばすことはできなかった。

区分	目標	結果
現役アスリート	100名	13名
指導者	20~30名	286名
NF・競技団体・チーム関係者	20名	19名
企業	20名	64名



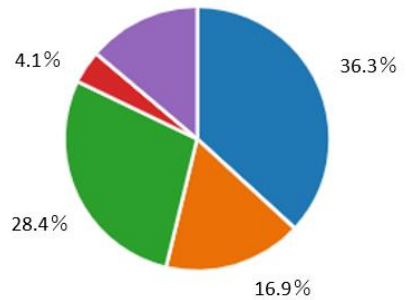
### アンケート回答者の属性

アンケートは 543 名の回答を得ることができた。昨年回答数 224 名から大幅に伸びている。

参加者に公認スポーツ指導者および ACC 認定者が多いこと、内容面での満足度が高いこと等が高い回答率の要因と考えられる。

所属	人数 (人)	
スポーツ団体	200	36.3%
教育機関	92	16.9%
民間企業	154	28.4%
行政機関	22	4.1%
その他	75	13.8%
回答者 合計	543	100%

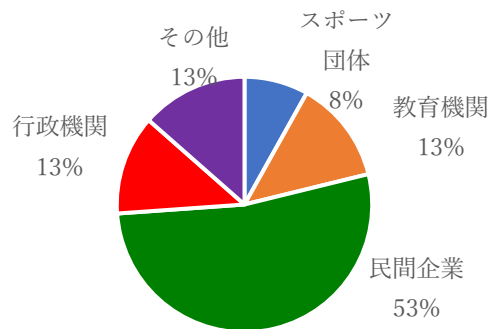
令和 4 年度 (2023) の所属割合



昨年の参加者と比較すると所属をスポーツ団体と回答した人の割合が大きく伸びている。(8%⇒36%)

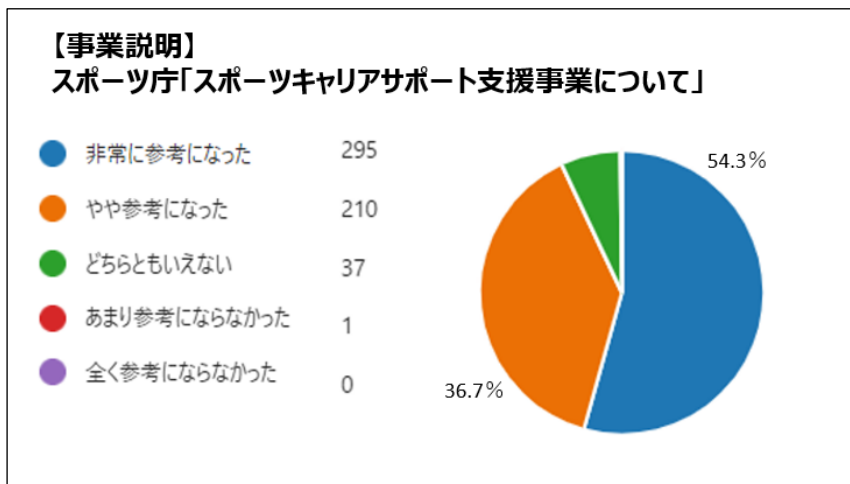
当カンファレンスのターゲットとしたアスリート、指導者層を含むスポーツ団体に所属する方々を集めることができた。

参考) 令和 3 年度 (2022) の所属割合

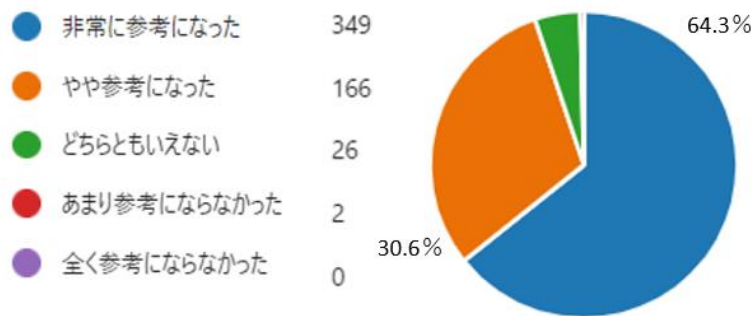


### パート別満足度 (アンケート結果より)

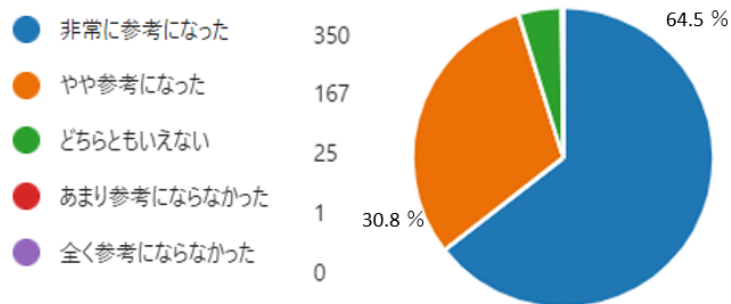
全てのパートで「非常に参考になった」「やや参考になった」の合計は 90% を上回る結果となった。中でも取り組み事例を紹介したセッション②は 95% を超える高い満足度となっている。



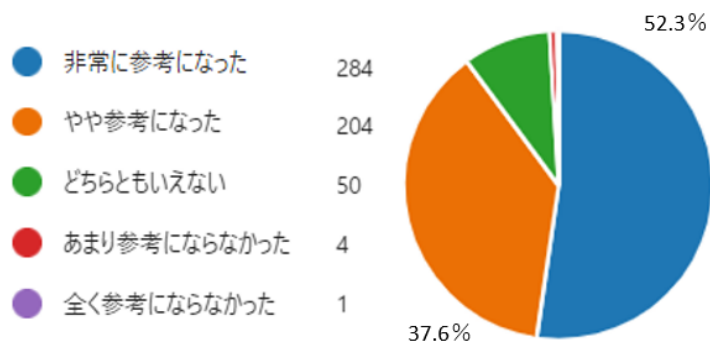
### セッション①「アスリートのキャリアについて考える」



### セッション②「指導者に求められるキャリア支援とは キャリア開発の取り組み事例」



### セッション③「アスリート人材への期待 ACCの取り組み」





### 3. カンファレンスのまとめと今後の課題

#### (1) 本カンファレンスの実施目的とその検証

本カンファレンスは以下の3点を開催の目的として掲げ、運営委員会にて企画が構想・承認された。

##### <実施目的>

第3期スポーツ基本計画に則ったキャリア支援施策の事例として SCSC の活動を広く発信する

(1)アスリートのキャリア開発への先進的な取り組み事例を共有する

(2)指導者に求められる「アスリートに対するキャリア支援」についての理解促進を図る

(3)アスリート委員とのタイアップイベントとし、アスリートに対してキャリア支援組織としての SCSC の認知 UP を図る

本年度は、スポーツ庁の事業説明および3つのセッションでカンファレンスを構成した。

実施目的「(1)アスリートのキャリア開発への先進的な取り組み事例を共有する」についてはセッション②の Part2 で4つの異なる対象・主体の事例（Jリーグプロチーム、中学生・高校生をメインとした体操クラブ、ラグビー・フットボール選手会、大学生を対象とした UNIVAS）を取り上げた。アンケート結果からもこのセッション②の満足度が一番高く、一定の価値を提供できたと考えられる。

実施目的「(2)指導者にもとめられる「アスリートに対するキャリア支援」についての理解促進を図る」については、セッション①およびセッション②の Part1 で主にカバーした。セッション①でのアスリート視点、指導者視点、支援者視点でのそれぞれのメッセージ、セッション②では野球界について古田氏からはアメリカでの事例も含めてお話しいただいた。さらにオリンピックとしてスポーツ庁の渡邊氏からのコメントもあり、多くの指導者に対してメッセージが届けられた。

実施目的「(3)アスリート委員とのタイアップイベントとする」ことまでは至らなかったが、JOC アスリート委員長の松田氏に登壇いただけたこと、JSPO の公認スポーツ指導者の更新研修と位置付けられたことによってスポーツ関係者への SCSC の認知 UP にもつながった。

また、カンファレンス後にリアル会場の参加者間での情報交換、名刺交換等の交流の機会を設定したことも当活動を活性化する上では重要であり、全体として実りの多いカンファレンスとなった。

#### 課 題)

- ・さまざまな競技や団体でキャリア教育・キャリア開発支援の取り組みが行われているが、事例の情報共有がなされていない。（個々の取り組みとして終わっている）
- ・カンファレンスへのアスリート自身の参加は多くない。アスリート個人の判断・意志でキャリアについての行動を起こすことはハードルが高いものと思われる。

提 言)

- ・チーム・団体等でのキャリア開発への取り組み事例の蓄積と情報共有のプラットフォームとして SCSC キャリアセンターを機能させる。
- ・JSPO との連携をさらに深め、指導者層へのアプローチを強化する。
- ・カンファレンスの開催時期の検討およびチーム・組織単位での参加を促す。

## IV. まとめ

本年度は、SCSC キャリアセンターとしての機能提供を開始することができた。

オンラインでの 1on1 面談の実施、さらにはチーム等でのキャリア研修の実施など、アスリートに直接かかわる機会を作ることができたのは大きな一歩であった。

そのうえで今後の課題としては、アスリートが相談したいと思ったときに気軽に相談できる場として SCSC キャリアセンターがあるという認知 UP を図っていくことが必要である。

また本年度の水戸ホーリーホックやラグビー・フットボール選手会の取り組み事例にあったようにチームに競技と利害関係のない第三者的な相談相手となる存在を置き定期的な面談を行うことが、アスリートのメンタル面の安定、ひいては競技力向上にもつながるということを実績を積み上げながら科学的に示していくことが必要と考える。将来的には ACC が各チーム等を担当し、定期的なキャリア相談に対応する体制を作ること想定している。

ACC の育成・活用について

育成面では、本年度も 171 名の ACC を認定し、トータルで 650 名を超える規模となった。一方で ACC の質については、継続的な育成が必要と考える。現状では一律に認定としているが、相談経験、スポーツ関連知識等によってレベル分けをし、ACC のレベルアップを進めていく。

カンファレンスで ACC の活動事例について発表の機会を設けたが、まだまだ活動できていない ACC が多いのも事実である。育成したアスリートキャリアコーディネーターが主体的、自主的に活動できるツールや仕組みづくりも重要であると考えている。

本年度のさまざまな活動を通してキャリアをテーマとしてアスリート自身への直接的なアプローチをすることの難しさはあるが、チーム、監督、コーチ等を介したアプローチを積極的に進めることで確実に変化が起きつつあると感じている。来期以降も JSPO、JOC、JSC 等との連携をさらに深め、指導者層へのアプローチを行っていくとともに就学期のアスリートへのキャリア教育もサポートしていく必要を強く感じている。

これらのキャリアサポートの活動を継続的に実施していくために SCSC の自走化の道筋をつけ、安定した財源確保のスキームをつくり、アスリートはもちろんのこと、企業やスポーツを愛する幅広い人たちに支持される、支援される活動としていきたいと考える。

本年度のカンファレンスのテーマに掲げた

## アスリート・指導者が知っておくべきアスリートキャリアの向上とライフキャリアの関係

### ～ 踏み出す一歩が、新たなキャリアを拓く ～

冒頭にも記述したが、

私たちは、アスリートが安心してスポーツに取り組むことができ、引退後も自己実現ができるキャリアトランジションを成しえる環境をつくることは、スポーツ界だけでなくまさに現代のキャリア形成にかかわる社会課題の解決に貢献するものと考えている。

アスリートが引退後のキャリアにおいてもスポーツで培った能力を発揮し活躍することは、アスリート個人の人生の充実のみならず、社会資源としてのアスリートの人材価値を社会に還元することにも繋がる。また、アスリートの競技活動内外の継続的な活躍は、スポーツの価値を高め、スポーツ参画人口の拡大、スポーツ産業の発展に貢献する。スポーツ産業の拡大は、競技団体の経営基盤を向上させ、競技力向上にも大きく貢献することとなり、好循環が生まれる。

アスリートがそれぞれの競技で行っている限界への挑戦が、競技を離れた後にも自らのキャリアへの挑戦へと転換され、自己実現を成し、社会へ貢献し続けることが、日本社会の成長、希望につながるものとする。

本年度の活動が、その一助となることを願っている。

## V. 事業実施体制

事業統括責任者

竹原 啓二 (株) フューチャー・デザイン・ラボ 代表取締役会長

ディレクター 兼 事業推進担当

曾我 隆之 (株) フューチャー・デザイン・ラボ 代表取締役社長

事業推進担当

藤原 健一 (株) フューチャー・デザイン・ラボ 取締役

アシスタント

岸野 菜つみ (株) フューチャー・デザイン・ラボ スタッフ

バンザラグチ・ズンビレグ (株) フューチャー・デザイン・ラボ スタッフ

## VI. 参考資料

参考資料1) - 1 SCSC 会則 令和3年10月1日改正版

参考資料1) - 2 寄附金等取扱規程

参考資料2) SCSC 会員一覧 2023年3月末現在

参考資料3) ACC 育成プログラム受講者属性および受講後アンケート結果

参考資料4) SCSC キャリアセンターチラシ

参考資料5) - 1 カンファレンスチラシ・日本経済新聞掲載広告

参考資料5) - 2 カンファレンス運営業務報告書 (株式会社MP & C作成)